

団体名	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 国際交流課						
事業名	留学生と地域住民の交流と相互理解促進プロジェクト～秋祭りで「ちょうさ」巡行をともに盛り上げよう～						
実施期間	2024年10月12日～10月13日						
場所	徳島県美波町						
参加者数	外国人留学生	日本人学生	地域住民 (留学生以外の外国人)	地域住民 (外国人除く。地域のスタッフ含む)	申請団体スタッフ	その他	合計
	8	6	0	50	4	0	68名

### <実施内容>

本事業では、10月12日～13日の2日間開催された日和佐八幡神社例大祭の一連の行事に留学生及び日本人学生が参加し、地域の伝統文化に触れ、異文化理解を深めるとともに、地域住民と交流し相互理解の促進を図った。10月8日に祭りの担当者による祭りの由来及び行事の趣旨並びに当日の行事の流れ等についての説明会はオンラインで実施した。

祭りの初日（12日）は、正午から夕方にかけて、日和佐の各地区から出される八台の「ちょうさ」と呼ばれる太鼓台に車輪をつけて町内運行（町廻り）が行われ、男子学生はこのうちの1台の引手として、町内の住民とともに参加した。また、女子学生は、同様に台車に載せて「ちょうさ」の後ろを運行する子供神輿の引手として、地元の子供達を助ける形で参加した。夜には、子ども相撲、演芸奉納、餅投げ、奉納花火を楽しんだほか、参加学生たちは5ヶ所の「ちょうさ」の待機場所（太鼓納屋）に分かれてそれぞれ地元の住民に太鼓の叩き方などを教えてもらうなど交流の機会をもった。二日目（13日）は、祭りの担当者から祭り参加について説明を受けた後、8つのちょうさを見学した。その後重さ1.5トンほどの「ちょうさ」から車輪を外し、男性50名程度で担いで神社近くの大浜海岸に造られた御旅所へと繰り出し（御浜出）、神社へとまた帰っていく（御入り）行事が行われた。この行事は、神社内に点在する社の前や節目節目で「ちょうさ」を頭上より高く持ち上げたり、海岸ではそのまま海に入ったりするなど、勇壮なもので、男子学生は、これに担ぎ手として参加した。女子学生は安全上の配慮と慣習上、「ちょうさ」の担ぎ手にはなれないため、前日同様、子供神輿に担ぎ手として加わった。昼休みの時間には、地域の住民やほかの他大学、高校から参加した学生とも交流した。

子供神輿は、昨年から本学学生の参加により復活をはたしたが、今年は参加する地元の子供の数も多くなり、伝統行事の次代の担い手となる子供たちの祭り参加を一層促進することに寄与した。留学生は、今回の行事参加と地域住民との交流を通じて、日本の伝統文化を体感するとともに、過疎地域において伝統的な祭礼を維持するために行われている様々な工夫や熱気を目の当たりにすることができ、地域の伝統文化維持に貢献をしつつ異文化理解を深める上での貴重な体験をする機会を得た。

### <記録写真>



参加者集合写真



男子学生ちょうさ担いでいる様子



女子学生子ども神輿を担いでいる様子

### <参加者からのコメント>

李必誠さん（中国）/LI BICHENG

地域の祭りに参加した体験は、私にとって非常に特別なものでした。この祭りの最大の特徴は、実際にちょうさという神輿を担ぐことができる点です。普段は見る側として楽しむことが多い祭りですが、自分がその一部となり、地域の人々と一緒に担ぐことができるという貴重な体験ができました。祭り当日、たくさんの人々が集まり、神社の周りはずっと賑やかでした。ちょうさの周りには、地域の人々が集まり、笑顔で声を掛け合いながら準備を進めていました。私もその中に加わり、最初は緊張しながらも、他の人たちの温かい歓迎に少しずつ心が和らいでいきました。ちょうさを担いでいると、肩に感じる重さが思った以上にずっしりとききました。しかし、その重さを感じながらも、周りの仲間たちと一緒に声を合わせて掛け声をかけることで、一体感が生まれました。みんなで息を合わせ、ちょうさを持ち上げて進む瞬間には、心が一つになったような感覚を覚えました。地域の人々との交流も印象に残りました。初めて会う人たちと共にちょうさを担ぎ、ふとした瞬間に話が弾むことがありました。年齢や背景を超えて、同じ目的のために一緒に行動することで、強い絆が生まれるのだと感じました。また、地域の伝統や文化を体験することができ、自分の中に新しい視点が広がったように思います。

白亦軒さん（台湾）/BAI YISYUAN

先日、地域の祭りに参加する機会を得て、2日間にわたる素晴らしい体験をしました。祭りの1日目は、街を回って祭り運営のための寄附を集める活動に参加しました。最初は緊張しましたが、一軒一軒回っている中で、祭りの話を楽しそうにしてくださる方もいて、少しずつ自分の緊張がほぐれていきました。合間には、街の景色を楽しむこともできました。2日目は、地域の人と一緒にちょうさを担ぐという特別な体験が待っていました。テレビでしか見たことがなかったちょうさを実際に担ぐことができたことにとても嬉しく、ワクワクしました。地域の皆さんと一緒にちょうさを担いだ瞬間、重さを感じながらも一体感が生まれ、心が高揚しました。周囲から聞こえる掛け声や応援の音が、さらに私たちの気持ちを盛り上げてくれました。ちょうさを担ぎながら、地域の人々との交流も深まりました。初めて会った方々ともすぐに打ち解け、同じ目的のために協力し合うことで、強い絆が生まれました。地域の伝統に触れることで、自分がこの地域の一員であることを実感でき、誇りに思いました。この2日間の体験は、ただ祭りを楽しむだけでなく、地域とのつながりや人々の温かさを感じる貴重な機会でした。疲れもありましたが、それ以上に得られた喜びや学びが大きく、今後も地域の行事に参加していきたいという気持ちが強まりました。地域の祭りは、私にとって大切な思い出となり、心に残る素晴らしい経験となりました。

英語名称（英語版作成用）

団体名	Tokushima Bunri University
事業名	Project of Promoting Exchange and Mutual Understanding between International Students and Local Residents: Let's make the Drumstage, or "Chosa", parade at the Autumn Festival more exciting together!